

校長室だより No.3

宿題の意義は？家庭学習で何を育む？

2023年6月2日 柏市立土小学校 校長 梅津健志

2週間が過ぎてしまいましたが、スポーツフェスタの実施に際しては、ご理解とご協力ありがとうございました。現在アンケートを集約し、公開に向けて準備をしています。コロナによる制限が開け、スポーツフェスタと名を変えても運動会という日本の伝統的な行事を活かして、子供たちにどのような経験が必要で、そこからどのような力を育むことがよいか、多くの意見を参照しながら次年度の計画に結び付けていきたいと考えております。今回のアンケートでは、提案内容の実施に向けては具体的な支援を示して下さる方が多くなり、保護者・地域と一緒に教育活動を創っていく、コミュニティスクールとしての姿が具体化してくることを感じます。今後ともよろしくお願ひします。

さて、今号では宿題について考えてみたいと思います。私自身もそうでしたが、宿題が無いと家で勉強をしない、という経験があります。多くの保護者の方々には家庭での学習時間をつくるために宿題を出して欲しいという意見をお持ちではないかと推察します。宿題は本当に子供に力を付けるのか？という問い直しをする時期に来ているように感じます。今の学習指導要領が目指しているのは、子供たち一人一人が「学ぼうという意欲を持って」学びに向かい「目標や目的を達成するために工夫しながら行う」という力を育てることを最終的な目的として行っています。宿題に当てはめると、土小ではがんばりま帳を自分で計画しながら、達成していき、自分のペースで続けていくことが大切になります。

先生方にも、授業と直結する必要な課題を宿題として出すことは大切だが、単なる復習のような課題で家庭学習の習慣化を図ろうとしても、むしろ出さない方がよい。家庭学習の習慣化は強制では生まれず、がんばりま帳を定期的に出していくようなことが大切であると言っています。

今年に入り私の手元に20冊（13人）のがんばりま帳が届きました。多い子は7冊を仕上げています。鳥について調べているノート、計算、漢字、色々ですが、興味あることを調べたり、行ったりしていくことが、結果として漢字力や計算力にもつながると思いますし、なによりも自分で考えてちょっと大変なことに挑戦していくことが大きな学びであり、これからの社会に必要な力であると考えています。

今年PTAでは当番制を無くしボランティアや興味関心でのお手伝い制度に変わりました。これも言われたからやるという古いシステムからの脱却だと思います。でも、来週予定の清掃活動には3人の応募しかないようです。たかががんばりま帳ですが、されどがんばりま帳と捉えて、学校を核にして社会の在り方をアップデートしていけたらいいと夢んでいます。